

(00001)  
G\_SAMPLE\_001  
リトス

サルサ

.....  
サルサ 章末語り  
.....

BG 路地裏  
time 夜

「こんな所に私を連れ出して、  
どつするつもりですか」

「違つよー!? 誤解を招くよつなこし  
言わないでー!？」

(00002)  
G\_SAMPLE\_002  
リトス

サルサ

「いえ、楽しいかと思いましたが。  
それで姉さん、結局どちらに?」

リトスが淡々とした声で尋ねてくるけど、  
正直あてがあるわけがなかった。  
「やっぱ、大聖堂より高い場所なんて、  
エルタリアにはないんじゃないかなあ」

(00003)  
G\_SAMPLE\_003  
リトス

サルサ

「ええ、ありませんよ」

「知ってたのにー!？」

(00004)  
G\_SAMPLE\_004  
リトス

サルサ

「そこをなんとかするのが  
姉さんかと思ひまして」

「ぶ、物理的に出来ないからなー」

(00005)  
G\_SAMPLE\_005  
リトス

サルサ

「じつなったら飛ぶしがありませんね」

「.....嫌な予感がするからやめとくも」

(00006)  
G\_SAMPLE\_006  
リトス

サルサ

「大丈夫。平気です。バッチリです」

「平坦な口調で言われても信用できないよー!？」

(00007)  
G\_SAMPLE\_007  
リトス

「仕方のない姉さんですね」

サルサ

なんでもわたしのせいになっていて、  
ほんとと泣きたい気分になってきた。  
「とほほ……」

(00008)  
G\_SAMPLE\_008  
リトス

「ほんとは一緒に見たいって言えば良かったのに、  
羨望じゃありませんね、姉さんは」

サルサ

「だって、カーリーナに勝つてからじゃないと、  
なんかいつ、フヘアじゃない気がする」

(00009)  
G\_SAMPLE\_009  
リトス

「横から搔く攫われても知りませんよ？」

サルサ

「づぐっ、そついえば可愛い子が  
やたらいつぱいいた気がする」

(00010)  
G\_SAMPLE\_010  
リトス

「私に」

サルサ

「リトスが搔く攫つもの！？」

(00011)  
G\_SAMPLE\_011  
リトス

「それは秘密です」

サルサ

「ひ、秘密なんだ……」  
リトスの顔をまじまじと見ても、  
本気なのかどつなのかはさっぱり分からない。

(00012)  
G\_SAMPLE\_012  
リトス

「大聖堂よりも高い場所を見つければ、  
彼も見直してくれるかもしれせんよ」

サルサ

「え、マジで！？」

台詞用注釈

(以下、リスターの真似、格好いい色男風味な口調で)

(00013)  
G\_SAMPLE\_013  
リトス

「凄いなサルサは……俺、  
サルサのこと見直したよ……」

サルサ

「そ、そつかな、リスター、えくく」

(00014)  
G\_SAMPLE\_014  
リトス

サルサ

「だから、もし良かったら、俺と……」

「お、俺と……？」

(00015)  
G\_SAMPLE\_015  
リトス

サルサ

「俺と……」

「い、いくん」

(00016)  
G\_SAMPLE\_016  
リトス

サルサ

「俺と妹さんの交際を認めてくれ」

「はい、よろこんで、って、  
えー…？ 遅いもー…？」

＜留用注釈

(1) から (1) の淡々とした調子です)

(00017)  
G\_SAMPLE\_017  
リトス

サルサ

「そして私たちはハッピーエンドに」

「遅っ遅っ、あれ、今認められたの  
わたしだったよね？」

(00018)  
G\_SAMPLE\_018  
リトス

サルサ

「仕方のない姉さんですね」

「つわーんっ!？」  
すっかり妹にからかわれたりしながら。  
わたしとリトスは結局……。  
自分たちのクラムハウスの屋根の上で  
流星群を見ることになるのだった。  
とほほ……。